

# 令和5年度 事業報告書

社会福祉法人  
遠賀町社会福祉協議会

## ★目次★

序文	1
＜総務系＞	
Ⅰ． 定例役員会の開催	2～5
Ⅱ． 会計・経理	5
Ⅲ． 会員増員の推進	5
Ⅳ． その他の庶務	6～8
＜事業系＞	
Ⅰ． 地域福祉活動の促進	9～13
Ⅱ． ボランティア活動の啓発・支援・推進	14～15
Ⅲ． 福祉教育活動の推進・啓発活動の充実	16～17
Ⅳ． 他団体との協力による地域福祉の促進	18～19
Ⅴ． いきいきクラブ事業【町受託事業】	20～21
Ⅵ． 障がいを抱える方への支援の推進	22
Ⅶ． 生活困窮者への支援の推進	22～24
Ⅷ． 相談支援・権利擁護事業の拡充	25
Ⅸ． その他の事業	26～30
社会福祉法人福岡県共同募金会遠賀町支会の取り組み	31～33

## ★事業報告★

令和5年度は、第4次地域福祉活動計画（令和4年～令和8年度）の2年目でした。地域共生社会の実現に向け事業を展開、実行する1年でした。

5月には、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられ、地域活動は一気に活気を取り戻すかと思われましたが、以前と同じ方法では一度離れた心は戻らないと思い知らされた1年でありました。

また、本会事務局長の急逝や会長の退任など事務局内外の混乱も重なり、本業である地域福祉の推進の先行きに不安を感じる滑り出しでもありました。

しかし、それでも地域活動を止めることはできないと福祉ネットワーク推進委員やボランティア団体の方々は積極的に動かれ、また本会も、その気持ちに寄り添い、多様な地域住民を包括した助け合いの輪を広げられるよう、福祉ネットワーク推進事業やボランティア活動の推進等への支援に努めました。

生活支援体制整備事業では、3校区の協議体それぞれが地域の課題に対して解決のための協議やできることをメンバーと共に模索し、その協議を円滑に行えるようにサポートしました。島門校区及び広渡校区協議体では認知症をテーマにして、それぞれに検討を重ねた結果、島門校区では認知症に関する啓発チラシの作成と配布を、広渡校区では講演会を実施することができました。浅木校区協議体では集える場所作りのためにベンチづくりを行い、浅木校区の行政区に配置することができました。

また、本会が行う子育て支援の事業は、令和4年度に終了した地域子育て支援拠点事業以外はありませんでしたが、今年度から新たにチャイルドシート貸出事業を始めました。子育て世代に対する直接的な支援に加え、若年層に対して事業を通して本会を知ってもらうことが期待される事業となっています。

その他事業の紹介も含め、令和5年度事業実績の詳細は次のとおりです。

## ☆事業内容☆ &lt;総務系&gt;

## I. 定例役員会の開催

社会福祉法人である本会の経営組織は、業務執行の決定機関である理事会、法人運営に係る重要事項の議決機関である評議員会、理事の職務執行の監査を行う監事で運営されています。

## (1) 理事会

開催回	開催日	協議内容
第1回	5月30日	議案第1号 理事候補者の推薦について 議案第2号 評議員候補者の推薦について 議案第3号 令和5年度遠賀町社会福祉協議会 補正予算（第1号）について 議案第4号 臨時評議員会の開催について 議案第5号 令和4年度遠賀町社会福祉協議会 事業報告の承認について 議案第6号 令和4年度遠賀町社会福祉協議会 決算報告書類の承認について 議案第7号 福祉サービス苦情解決第三者委員の承認について 議案第8号 次期役員候補者の推薦について 議案第9号 定時評議員会の開催について 議案第10号 副会長の選任について 報告第1号 社会福祉充実残額について
第2回	6月22日	議案第1号 会長の選任について 議案第2号 副会長の選任について 議案第3号 評議員選任・解任委員会の選任について 議案第4号 顧問の選任同意について 議案第5号 理事・評議員の部会の所属について
第3回	7月25日	議案第1号 事務局長の承認について 議案第2号 監事候補者の推薦について 議案第3号 令和5年度遠賀町社会福祉協議会 補正予算（第2号）について 議案第4号 臨時評議員会の開催について

開催回	開催日	協議内容
第4回	10月20日	議案第1号 理事候補者の推薦について 議案第2号 臨時評議員会の開催について 議案第3号 会長の選任について 報告第1号 会長の職務状況の報告について
第5回	12月15日	議案第1号 評議員選任・解任委員会委員の選任について 議案第2号 電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程の制定について 議案第3号 チャイルドシート貸出事業実施要綱の制定について 議案第4号 福祉団体助成金交付要綱の全部改正について 議案第5号 地域子育て支援拠点事業運営協議会及び拠点事業相談員設置規程を廃止する規程について
第6回	3月8日	議案第1号 定款の一部改正について 議案第2号 職員就業規則の一部改正について 議案第3号 職員給与規程の一部改正について 議案第4号 令和5年度遠賀町社会福祉協議会 補正予算(第3号)について 議案第5号 令和6年度遠賀町社会福祉協議会 事業計画書及び予算書について 議案第6号 役員等賠償責任保険の契約の締結について 議案第7号 定時評議員会の開催について 報告第1号 会長の職務状況の報告(下半期)について 報告第2号 要綱の改正について 報告第3号 要綱の廃止について

## (2) 評議員会

開催回	開催日	協議内容
第1回	5月30日	議案第1号 理事の選任について 議案第2号 令和5年度遠賀町社会福祉協議会 補正予算（第1号）について
第2回	6月22日	議案第1号 理事及び監事の選任について 議案第2号 令和4年度遠賀町社会福祉協議会 事業報告及び決算報告書類の承認について 報告第1号 社会福祉充実残額について
第3回	7月25日	議案第1号 監事の選任について 議案第2号 令和5年度遠賀町社会福祉協議会 補正予算（第2号）の承認について 報告第1号 理事・評議員の部会の所属について 報告第2号 事務局長の決定について
第4回	10月20日	議案第1号 理事の選任について 報告第1号 会長の選任について
第5回	3月22日	議案第1号 定款の一部改正について 議案第2号 令和5年度遠賀町社会福祉協議会 補正予算（第3号）の承認について 議案第3号 令和6年度遠賀町社会福祉協議会 事業計画及び予算書の承認について 報告第1号 職員給与規程の一部改正について

## (3) 監査

開催回	開催日	協議内容
第1回	5月18日	令和4年度業務監査 令和4年度決算に伴う諸帳簿・伝票・決算書類等の監査 令和4年度福岡県共同募金会遠賀町支会会計決算監査

## Ⅱ．会計・経理

定期的に税理士からの監査を受け、公正な会計処理を行いました。

実施日	内 容
4 月 28 日	令和 4 年度 2、3 月分 税理士による監査
5 月 18 日	令和 4 年度分 社協監事による監査
7 月 6 日	令和 5 年度 4、5 月分 税理士による月例監査
8 月 29 日	令和 5 年度 6、7 月分 税理士による月例監査
11 月 8 日	令和 5 年度 8、9 月分 税理士による月例監査
12 月 26 日	令和 5 年度 10、11 月分 税理士による月例監査
3 月 5 日	令和 5 年度 12、1 月分 税理士による月例監査

## Ⅲ．会員増員の推進

本町に在住する方、社会福祉関係機関及び本町に事務所又は事務所を有する団体で、本会の目的に賛同し、入会いただいた方を会員としています。

地域福祉活動の発展のための財源として、区長の協力の下、広く町民や事業所への訪問を通じて会費協力を努めました。

合計：4329 件 2,753,000 円（昨年度：4,346 件 2,792,150 円）

	協力数（件）	金額（円）
一般会員	4,236	2,118,000
賛助会員	55	55,000
特別会員	38	580,000

事業所の移転や閉鎖などがあり、特別会員を含め、一般、賛助会員数も減少している。新規に協力事業所を開拓するとともに、一般・賛助会員に趣旨を理解してもらい、新規加入や継続してもらえるように努力する必要がある。

## IV. その他の庶務

### (1) 寄付の受入れ

寄付件数及び寄付額は、前年度に比べ増やすことができました。

合計：61 件 1,738,114 円（昨年度：51 件 1,429,365 円）

	協力数（件）	金額（円）
一般寄付	7	213,114
香典返し	54	1,525,000
使途指定寄付	0	0

前年度に比べ、  
浄財は増えたもの  
の、これ以上の件  
数増加は厳しいと  
思われる。自主財  
源の確保には、他  
の収入源を見つけ  
る必要がある。

### (2) 職員の安全衛生管理・労務管理

職員の安全衛生を図るため、下記内容に取り組みました。

月日	内 容
4～3月 (月1回)	気になるリスクの確認 4S（整理・整頓・清掃・清潔）活動の実施
6月26、27日	健康診断
6月13日 7月28日 9月13日 11月16日 1月17日 3月6日	保健師による健康相談 (西日本産業衛生会)
6月13日 9月13日 3月6日	嘱託産業医による健康相談 (西日本産業衛生会)

### (3) 職員の知識技能習得のための研修会への参加

地域福祉事業を行うためには、現在の福祉の動向を十分に理解している必要があるため、職員の資質の向上、スキルアップを図るよう研修会への参加等を積極的に行いました。



月	日	研修内容
6	6	第20回福岡県生活支援コーディネーター連絡会
7	4	令和5年度生活福祉資金事務説明会※
	26	福岡県日常生活自立支援事業専門員研修会Ⅱ
8	25	社会福祉法人向け電子帳簿保存方法セミナー※
	26	令和5年度災害ボランティアセンターの設置運営訓練全体研修※
9	7	令和5年度社協職員のための生活困窮者に活かす社会調査研修
	15	なかまのなかまカフェ拡大版
10	23	令和5年度福岡県社会福祉大会
11	8	令和5年度日常生活自立支援事業生活支援員研修会(実践者編)※
	10	宇美町社会福祉協議会への木守区福祉ネットワーク推進委員研修会へ同行
	12	大牟田市駛馬地区ほっと安心ネットワーク模擬訓練視察
12	18	福岡県防災講演会
1	8	地域における子育て支援講演会
	18	遠賀町ボランティア連絡協議会研修会へ同行
	22	令和5年度市町村社協会長・常務理事・事務局長研修会
	27	令和6年度能登半島地震被災地域社協と支援者からの現地状況報告会※
2	18	令和5年度ふくおか“きずな”フェスティバル
	23	中間市社協令和5年度成年後見制度啓発講演会
	27	令和5年度7月7日からの大雨災害に伴う災害ボランティアセンター振り返り会議
3	2	令和5年度地域貢献事業講演会「すべての子どもが安心と希望を抱ける地域づくり」講演会
	8	自分らしく働くためのキャリア応援セミナー
	12	令和5年度生活困窮者支援に関する研修会
	21	令和5年度市町村社会福祉協議会事務局長・管理職員研修会

※オンライン研修・動画視聴型研修

精神保健福祉士国家資格取得：1名

## (4) 会議等への職員の派遣

会議名	出席回数
遠賀町あんしん地域づくり協議会	3
遠賀町障がい者施策等検討委員会	4
遠賀町生涯学習推進協議会	1
遠賀町地域福祉計画推進委員会	1
遠賀町高齢者保健福祉計画策定委員会	3
遠賀町障害福祉サービス審査会	6

## ☆事業内容☆ &lt;事業系&gt;

## I. 地域福祉活動の促進

## 1. 福祉ネットワーク活動

福祉ネットワーク推進委員会の活動を支援し、地域の助け合い、支え合いの輪が広がるよう以下の事業に取り組みました。

## (1) 福祉ネットワーク推進委員研修会

昨年度に指導していただいた酒井保氏を再度招き、支え合いと相互扶助による住みやすい地域づくりへの参考にしてもらえるよう、分かりやすくお話いただきました。

開催日：5月20日（土）

参加者数：63名

会場：遠賀町中央公民館

講師：ご近所福祉クリエーター 酒井 保 氏

内容：「5年後、10年後の“支え合いの地域”を目指して」

講演では、講師が作成した投射資料により、分かりやすく理解ができたとの感想が寄せられた。

## (2) 福祉ネットワークオリエンテーション

23 行政区全ての地区を訪問し、福祉ネットワーク活動について説明をすることができました。

実施回数：23回（昨年度：23回）

開催地区：23地区（昨年度：23地区）

延参加者数：251名（昨年度：267名）

福祉ネットワーク活動の説明の中で、見守りのポイントと世代間交流の必要性についての説明を行い、地域福祉活動に取り組んでももらえるよう行った。

実施日	地区名	参加者数	実施日	地区名	参加者数
11月11日	島津	5	5月26日	中央	15
5月24日	若松	10	10月9日	広渡	16
4月28日	鬼津	12	5月16日	木守	8
5月18日	尾崎	10	6月28日	上別府	15
8月6日	田園北	12	6月13日	若葉台	6
6月10日	田園南	9	5月17日	東和苑	11
6月15日	別府	16	7月19日	浅木	15
6月7日	今古賀	5	7月18日	虫生津	12
5月9日	松の本	19	6月17日	芙蓉	4
9月13日	遠賀川	7	6月10日	緑ヶ丘	13
6月16日	旧停	8	5月17日	老良	9
6月13日	新町	14			

### （３）福祉ネットワーク友愛訪問

本年度の鉢植えでは、校区老人クラブ会員に加え校区民協（浅木小のみ）にも参加してもらい、世代間交流を実施できました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ビデオメッセージ（DVD）を添えて、町内高齢者施設に届けて世代間交流を促進しました。

鉢植え数：1,240 鉢（昨年度：1,150 鉢）

実施日	学校名	鉢植え数（鉢）
11月10日	島門小学校	430
11月14日	広渡小学校	390
11月10日	浅木小学校	420

浅木小学校の鉢植えでは、地区老人会会員に加えて校区民生委員にも参加してもらうことができた。鉢植え後、各地区で日常での交流が活発になっている。

### （４）介護予防型サロン活動への支援

教室名	資格	講師名
体操教室	運動指導士	一井 久美子 氏 高橋 由美子 氏 渚上 香 氏 松永 幸代 氏
	レクリエーションインストラクター	田仲 靖子 氏
口腔教室	歯科衛生士	手島 恵美 氏 中倉 まき子 氏 鍋島 美音 氏
栄養教室	栄養士	奥尾 久美子 氏

実施回数：170回（昨年度：138回）

開催地区：23地区（昨年度：23地区）

延参加者数：3,891名（昨年度：2,745名）

地区名	回数	地区名	回数	地区名	回数
島津	1	松の本	7	若葉台	2
若松	8	遠賀川	12	東和苑	20
鬼津	21	旧 停	3	浅 木	6
尾崎	12	新 町	1	虫生津	8
田園北	7	中 央	2	芙 蓉	3
田園南	6	広 渡	7	緑ヶ丘	11
別 府	11	木 守	10	老 良	6
今古賀	5	上別府	1		

本会が講師の調整をせずに、独自で運営している地区にも訪問したことで、23行政区すべてのサロン活動を把握することができた。この全地区訪問は今後も継続していく。

※本会が講師調整した活動及び職員が訪問した活動の集計。

## 2. 生活支援体制整備事業（第2層生活支援コーディネーター）

### 【町受託事業】

地域住民による自主的な支え合いの輪がひろがるよう、各校区協議体の取り組みを通じて、更なる高齢者支援に向けて取り組みました。今年度より、協議体メンバーを刷新し、新しいメンバーでの協議体となったため、本事業と協議体について説明し、理解を求めました。

#### （1）小学校区単位での取り組み

島門・広渡校区に1名、浅木校区に1名の計2名の生活支援コーディネーターを配置し、サロン活動やオリエンテーション、地区主催の行事への参加と訪問を行い、本事業について理解を深めてもらえるよう努めました。

#### （2）協議体の運営・支援

実施回数：15回（昨年度：14回）

延参加者数：92名（昨年度：91名）

#### 【島門校区】（協議体愛称：翼の会）

開催回	開催日	参加者数	協議内容
第1回	6月9日	7	認知症の啓発方法について
第2回	8月29日	7	認知症啓発のためのチラシ作成について
第3回	10月25日	6	認知症啓発用チラシの内容について
第4回	11月28日	8	認知症啓発用チラシの校正と配布方法について
第5回	2月16日	7	認知症啓発用チラシの配布の反応等について

島門校区では、認知症の啓発について、チラシを作成、配布を行った。

#### 【広渡校区】（協議体愛称：つながり隊）

開催回	開催日	参加者数	協議内容
第1回	6月14日	6	認知症講座の開催方法について
第2回	7月13日	6	大谷るみ子氏による講演会の内容について
第3回	8月31日	6	講演会のプログラム確認と役割分担について
第4回	9月29日	5	講演会の最終打ち合わせ

広渡校区では、認知症講座について具体的に検討を重ね、開催することができた。

	10月7日	46(4)	大谷るみ子認知症講演会・個別相談会開催 当日
第5回	10月31日	5	講演会の反省と今後の取り組みについて
第6回	12月21日	6	講演会アンケートの報告とフォローアップ研修会の開催について
	2月10日	27(3)	広渡校区認知症研修会 当日

## 【浅木校区】（協議体愛称：浅木 SAN・AI の会）

開催回	開催日	参加者数	協議内容
第1回	4月22日	5	ベンチの試作（ペンキでの塗装）
第2回	7月29日	8	浅木ベンチプロジェクト報告とこれからの活動について
	9月15日	5	浅木校区協議体研修会 「なかまのなかまカフェ拡大版」へ参加
第3回	11月11日	6	生活支援の仕組みづくり①
第4回	1月19日	5	前回の振り返りとこれからの活動について

浅木校区では、「見守られポイント（集い場）の発見」を目指したベンチの製作・設置を行うことができた。各地区からの参加において、DIY を得意とする人や大工専門職と幅広い人の参加があった。作成時には、地区間での道具の貸し借り・作成方法等で交流を深めることができた。完成したベンチは、公民館前や公園内に設置され、地域住民の交流の場として活用されている。



## 【全体会】

講師による基調講演のほか、校区ごとに選出された各行政区の活動者や生活支援コーディネーターからの発表を通じて、身近な支え合いについて理解していただける場とすることができました。

開催日：令和6年3月16日（土）

参加者数：62名

会場：遠賀町中央公民館

講師：① NPO 法人日本コミュニケーションライフサポート  
センター 理事長 池田 昌弘 氏

② NPO 法人おんがおたすけ隊  
監事 中島 正博 氏

③（第2層） 浅木校区 矢野 隆博  
広渡・島門校区 三根伸高

（第1層）遠賀町地域包括支援センター 米村典子氏

内容：①「つながり気になかけ合い支え合う地域づくり」

②「おんがおたすけ隊の活動について」

③「生活支援コーディネーターの活動報告」

全体会という名称が浸透していなかったためか、福祉ネットワーク推進委員の出席において、地区からの参加者にばらつきがあった。

池田昌弘氏の講演を中心に住民による相互自主組織のおんがおたすけ隊の活動報告、第1層、2層生活支援コーディネーターの報告会ともに好評を得ることができた。

## （3）第1層生活支援コーディネーターとの連携

地域包括支援センターと毎月1回の月例定例会議を実施しました。各層での活動状況の報告や事業内容の説明等について協議しました。

## （4）生活支援体制整備事業だよりの発行

協議体終了後に、生活支援体制整備事業だよりを4回作成し、協議体の進捗状況の報告等を記載し、訪問時での説明等に活用しました。また、作成したものについてはその都度本会ホームページへ掲載し、事業の周知に努めました。

## Ⅱ. ボランティア活動の啓発・支援・推進

### 1. ボランティアセンターの運営

#### (1) 個人ボランティアへの活動支援

趣味や特技を活かしたボランティア活動として、町内福祉施設でのボランティア活動を支援しました。

活動者の希望である福祉施設利用者との会話や学童利用児童との遊び相手のほか、福祉施設側から将棋の対局相手の希望等もありました。連絡調整を行い、実際の活動時には同行し、その活動を支援しました。ボランティアと福祉施設とのつなぎ役としてのコーディネート支援を通じ、各々のフォローアップを行えました。

また、本会ホームページを活用し、ボランティアに関する情報提供も図りました。

個人ボランティア延活動者数：43 名（昨年度：41 名）

月	延活動者数	月	延活動者数	月	延活動者数
4	3	8	2	12	3
5	4	9	4	1	2
6	3	10	3	2	8
7	4	11	3	3	4

#### (2) ちょこっとお手伝いボランティアの活動支援

身近な支え合いとしての活動を支援できるよう、連絡調整を図りました。

ちょこっとお手伝いボランティア延活動者数：378 名（昨年度：394 名）

月	延活動者数	月	延活動者数
4	37	10	41
5	40	11	40
6	44	12	34
7	48	1	33
8	42	2	26
9	41	3	25

#### (3) ボランティア連絡協議会への活動支援

ボランティア連絡協議会の運営支援を行いました。今年度より、各団体同士の顔の見える連携を取り戻せるよう役員研修会を開催し、国際交流と環境をテーマとして、各施設での訪問学習を行いました。

各種感染症の拡大期では、活動の場となっている入所系福祉施設では、外部訪問者の入館ができない事態に陥ったが、その他活動できる場が提供できるよう、通所介護事業所や学童保育を訪問し、活動に繋げた。

依頼の多くは地域包括支援センター経由によるもの。

また、ボランティアを調整するだけではなく、区長や民生委員に世帯状況等聞き取り調査を行う中で、見守り支援につながるよう意識した。



#### （４）ボランティアグループの支援と助成

「赤い羽根で広がる！福祉ボランティア育成助成事業」を通して、団体活動の更なる機会を支援しました。

令和５年度は、研修会の実施、各種行事への参加等さまざまな活動に活用されました。

申請団体数：４件（昨年度：４件）

申請辞退数：１件（昨年度：０件）

助成団体数：３件（昨年度：４件）

集合による開催が再開できるようになってきており、団体間の関係づくりを再構築・強化する必要がある。

#### （５）傾聴ボランティア養成講座の実施

傾聴ボランティア活動は、人間関係の希薄化が進んでいる現在の社会において、貴重な取り組みとなっています。ボランティア養成講座を傾聴ボランティアひなたぼっこの協力の下、実施しました。

受講後には、傾聴ボランティアひなたぼっこへ入会し、活動に取り組まれています。

講座受講後に、参加者の内の２名が活動への興味関心がふかまり、団体へ入会した。現会員とともに活動を行っている。

開催日：９月２日・９日・１６日（土）

参加者数：延べ４６名

会場：遠賀町ふれあいの里

講師：NPO 法人 FFA フォロワーシップ協会

## ２．災害時における災害ＶＣの立ち上げ

#### （１）災害ＶＣ設置研修の実施（模擬訓練）

本年度は、実地での設置模擬訓練は行いませんでした。

#### （２）各種研修会への参加

各種団体や機関が主催する研修会へ参加し、災害ＶＣについてのスキルアップに努めました。

また、中間・遠賀地区社協の活動の中で、災害ＶＣ開設後の地域の復興と被災者支援に向けてのボランティアの必要性について研修会を開催するなど、広く学習する機会を設けました。

- ・福岡県社会福祉協議会研修会
- ・中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会  
（ボランティア研修会、役職員研修会）

9月に発行した200号では、創刊から現在までの本誌の変遷から、遠賀町における地域福祉の歩みやその歩みを牽引してきた民生委員やボランティア活動者にスポットライトを当てることができた。

その流れに乗り、他の号でも町民インタビューを盛り込んだ記事を多く採用し、事業紹介に留まらず、広報としてのリレーションシップ構築機能を意識した記事の掲載、発行ができた。

マーククイズを盛り込むことで児童の関心を引くことができた。今後も様々な工夫を凝らし、福祉教室を実施していく。

### Ⅲ. 福祉教育活動の推進・啓発活動の充実

#### 1. 地域における福祉教育

##### (1) 広報誌「社協だより」

発行冊数：8,450冊（昨年度：8,400冊）

発行月	主な内容
4	令和5年度事業計画・予算
7	令和4年度事業報告・決算
9	社協だより創刊200号記念記事掲載・令和5年度赤い羽根共同募金PR
11	地域活動・本会事業紹介
1	本会事業紹介・令和5年度赤い羽根共同募金報告

##### (2) 住民福祉講演会

遠賀町ボランティア連絡協議会の協力の下、視覚障がい者マラソンガイドランナーの実践の講話を通じ、共生社会の必要性、人と人とがつながり続けることの大切さへの理解と普及として開催しました。

開催日：7月15日（土）

参加者数：119名

会場：遠賀町中央公民館 大ホール

講師：株式会社カムラック 広報

視覚障がい者マラソン ガイドランナー 堀内 規生 氏  
内容：「視覚障がい者マラソン ガイドランナーの魅力」

#### 2. 学校における福祉教育

##### (1) 小学校福祉教室

小学5年生を対象に、福岡県社協作成の福祉教材「ともに生きる」を配布と、福祉マークのクイズや町内で活動しているボランティア団体等の紹介を行い、福祉を知ってもらえるように努めました。

本年度は、読み聞かせボランティア「おんがにじの会」にご協力いただきました。

配布数：185 冊（昨年度：215 冊）

学校名	実施日	配布数（冊）
島門小学校	11 月 29 日（水）	85（昨年度：110）
広渡小学校	11 月 22 日（水）	50（昨年度：65）
浅木小学校	11 月 29 日（水）	50（昨年度：40）

## （２）中学校福祉教室

### ① 遠賀中学校

開催日：11 月 28 日（火）

対象者：遠賀中学校全校生徒

参加者数：400 名

会場：遠賀中学校

講師：九州補助犬協会 理事長 桜井 恭子氏

内容：「介助犬を知ろう」

### ② 遠賀南中学校

開催日：12 月 6 日（水）

対象者：遠賀南中学校全校生徒

参加者数：120 名

会場：遠賀南中学校

講師：九州補助犬協会 理事長 桜井 恭子氏

内容：「介助犬を知ろう」

補助犬が障がいのある人にとって重要な存在であることはもちろん、障がいについての理解も深まった。

今後も様々な福祉分野の講師を招き、子どもたちが身のまわりの人々や地域との関わりを通して、そこにはどのような福祉課題があるかを学び、その解決に向けて考え、行動する実践力を養えるよう支援していく。

## （３）福祉教育振興助成金の交付

町内小学校 3 校・中学校 2 校へ 1 校当たり 20,000 円の助成を行い、各校での自主的な福祉教育を支援しました。

学校名	活用実績
島門小学校	特別支援学級児童による草花等の栽培活動、四方の里交流会、見守り隊感謝の手紙、もちつき集会、調理実習、等
広渡小学校	
浅木小学校	
遠賀中学校	特別支援学級による工作活動、創作活動、調理実習、花壇づくり、等
遠賀南中学校	

## IV. 他団体との協力による地域福祉の促進

### 1. 社会福祉法人間での連携

#### (1) 遠賀町社会福祉法人連絡会

今年度は、総合相談窓口を開設しました。町内9法人の代表者で構成する法人連絡会で検討を重ね、相談を受け付けた際には法人相互に協力することとしました。

また、福祉フェアに参加し、総合相談事業及び社会福祉法人の周知を図ることができました。

参加法人数：9法人（昨年度：9法人）

専門福祉分野	参加法人数	法人名
高齢者	3	筑前会（遠賀園）、 福祉松快園（静光園）、 正勇会（ソレイユ遠賀）
児童	3	朝木会（南部保育園）、 遠賀会（遠賀川保育園）、 童心会（山びこ保育園）
障がい者	2	桃李会（四方の里）、 政憲会（ワークセンターおんが）
地域	1	遠賀町社会福祉協議会

実施回数：3回（昨年度：2回）

実施日	参加法人数	内容
6月7日	8	代表者会議
10月25日	7	代表者会議
3月7日	8	代表者会議

総合相談窓口を開設し、社協だよりで周知することができた。

福祉フェアでも総合相談を受け付けたが相談者はなかった。今後も積極的に周知に努める。



## （２）墓地清掃管理事業

障がい等で就労が困難な方に新たな働き方を提供することをねらいとする事業です。社会福祉法人政憲会ワークセンターおんがや社会福祉法人遠賀中間会みどり園、一般社団法人アポロ ポールスタのスタッフと協力して、高齢等の理由によって墓地清掃が困難な方を対象に、墓地清掃を代行しています。

昨年度からさらに利用者が増加しました。

延利用者数：76 件（昨年度：61 件）

月	一般（件）	ふるさと納税（件）
4	0	3
5	0	1
6	0	0
7	0	4
8	21	3
9	9	2
10	0	1
11	0	3
12	12	1
1	0	1
2	1	0
3	14	0

ふるさと納税返礼品としての墓地清掃も安定した需要を保っており、就労支援・高齢者支援・町財源確保の３点に寄与している。

今年度は、新規協力事業所の獲得は叶わなかったものの、一時的に失業、困窮状態にある方を他事業の中で発見し、本事業の担い手（清掃員）として活用できたことは、障がい者の就労支援という枠を越えた柔軟な働き方として好事例を得たと考える。

## ２．災害時対応に向けたネットワーク

災害発生時においては、町内のつながりや支え合いも重要ですが、町外の関係機関による支援の受け入れや全国的なネットワークを持つ団体との連絡調整等も大切です。復旧・復興のための力を幅広く、重層的に高めていくために、各種研修会への案内と参加時での情報共有を行いました。

各種相互協力を進めるべく、中間遠賀地区社協役職員研修会の実施時に遠賀ロータリークラブの参加があり、関係性の強化を図ることができた。

（１）公益社団法人ひびき青年会議所との災害時相互協力協定

（２）中間・遠賀地区社会福祉協議会間での災害時相互支援協定

（３）ロータリークラブとの災害時相互協力協定

## V. いきいきクラブ事業 【町受託事業】

遠賀町にお住まいの概ね 65 歳以上で介護認定を受けていない方、または要支援 1 及び 2 の認定をお持ちの方を対象に、1 日 800 円で利用できる通所型の介護予防サービスです。

コロナ禍後より外出の機会が減った利用者が多く、身体活動量の減少、下肢機能の低下が目立ちました。そのため今年度は、いきいきクラブ利用時には少しでも運動量を増やすことを目標とし、転倒予防体操はもちろんのこと、万歩計を用いた館内ウォーキングにも力を入れ、利用者には取り組んでいただきました。

利用者側にも、いきいきクラブ利用時には時間があれば少しでも多く歩行し体力や下肢筋力を維持するという考えが浸透し、多くの利用者がその日に自身で設定した目標歩数をクリアできるように取り組まれていました。

また、プレフレイル状態になっている利用者に対しては、専門職と連携し早期の個別介入を行い、要介護状態にならないよう対策を講じました。

延利用者数：3,653 名（昨年度：3,389 名）

開催日数：251 日（昨年度：254 日）

月	開催日数	延利用人数	月	開催日数	延利用人数
4	21	303	10	20	306
5	22	294	11	22	338
6	22	306	12	18	279
7	21	301	1	19	295
8	21	284	2	21	312
9	22	332	3	22	303

### （1）介護予防の実施

今年度から下肢筋力低下予防運動のため万歩計を用いた館内ウォーキングを正式に採用し、利用者が安全に楽しみながら継続して実施できるようサポートを行いました。

6 ヶ月毎に実施している体力測定の結果をグラフ化し、利用者には前回の測定時と比べどのように変化したかを解りやすく伝えるとともに、その測定結果をもとに今後要介護状態になりうる利用者に対して、町の保健師や小倉リハビリテーション病院の専門職と連携して、要介護状態にならないよう個別指導を行いました。

また、町から借りた体成分分析器を用いて、現在の利用者の栄養状態や代謝量・内蔵脂肪などの測定も行い、健康維持に役立つ情報を提供しました。

今年度も長年利用されていた利用者の介護保険への移行が目立った。

現在通所している利用者の高齢化も進んでおり、今後も利用者の減少に歯止めがかからないことが予想される。

また、新たな利用希望者の中には、既に認知機能の低下が明らかの方も多くなっており、継続した利用の受け入れができないケースも増加している。

コロナ禍後からプレフレイル状態の方も増加していると思われるため、今後はそういう方々が利用しやすい介護予防体操やレクリエーションを実施し、新規の利用者を増やして行く必要がある。

## （２）地域社会との交流の実施

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ここ数年は地域との交流が全くできていませんでしたが、今年度は、芸能訪問、チーム水上、フラダンス、お茶、脳トレなど多くのボランティアの方に参加していただき、利用者も久しぶりの交流を喜ばれていました。

## （３）選べるレクリエーションの実施

約４年ぶりに遠足レクリエーションを実施しました。日頃、１日の大半を室内で過ごされる利用者にとって、利用者同士のコミュニケーションを深める良い機会となりました。

また、行程に買物を組み込むことで、楽しい時間を過ごしながらも無理のない運動量を確保することができ、介護予防につなげることができました。

## （４）福祉専門職との連携強化

遠賀町地域包括支援センターのケアマネージャーや、介護サービス事業所の担当者とは密に情報共有を行い、利用者に本当に必要なサービスが受けられるよう、アドバイスを行いました。

## 【行事・イベント】

延参加者数：206名（昨年度：232名）

開催日数：14日（昨年度：20日）

行 事	開催日	参加者数
鯉のぼりドライブ	4月18日（火）～22日（土）	68名
買物レクリエーション	遠足に組み込んだため実施なし	
遠足	10月10日（火）～13日（金）	57名
おもしろカー大会	全曜日を一同に集めるのは感染リスクが高いため実施なし	
口腔教室	2月6日（火）～10日（土）	81名
お花見ドライブ	天候と開花が合わず実施できず	

## Ⅵ. 障がいを抱える方への支援の推進

### （１）障がい者団体間交流促進活動助成金事業

本年度からの取り組みとして、障がいを抱えている当事者団体及び支援団体への案内を行いました、事業申請はありませんでした。

### （２）視覚障がいのある方等への音の広報誌（音訳ＣＤ）の貸出

例年通り実施しました。現在、定期的に２名の方が利用しています。また、遠賀町役場福祉課の窓口にも設置しました。音訳については「音訳ボランティア結の会」の方々に協力いただいています。

音訳ＣＤ配布回数：３６回

## Ⅶ. 生活困窮者への支援の推進

新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響や世界情勢の悪化からの物価高騰等、経済活動の低迷は継続しており、以前厳しい現状となっています。本会では、県社協と特例貸付償還事務事業を受託し、借受人への現況の聞き取りや相談対応、償還センター・自立相談支援機関へのつなぎを行いました。

### （１）生活福祉資金貸付事業【県社協受託事業】

生計中心者の失業等、世帯の生計困窮を支援するために福岡県社協が貸付を実施しており、地区民生委員の協力を得ながら窓口業務を行いました。

貸付相談時には、自立相談支援機関の家計相談事業との連携を図りましたが、非該当となり、本年度の貸付申請はありませんでした。

#### 【生活福祉資金】

##### 福祉資金

その他日常生活費：０件 ０円

##### 教育支援資金

就学支度費：０件 ０円（昨年度：５件 1,247,000 円）

貸付受付時において、使途目的が明確であること、償還能力の確認や民生委員との面談等の必要があるとともに、審査決定までに時間を要することを承諾してもらうことが必須である。

貸付非該当の方に、緊急用食糧等給付事業や福岡ライフレスキュー事業に切り替え支援を行うことができた。



## （２）生活保護世帯等一時貸付事業

生活保護受給決定から初回受給日までのつなぎ資金として、生活保護受給決定者及び受給が確実な者を対象に貸付を行いました。

延利用者数：１件 30,000 円（昨年度：３件 70,000 円）

緊急時の対応として行っている。生活福祉資金緊急小口資金の申請で対応ができる場合は、案内を行っている。

## （３）ふくおかライフレスキュー事業

既存の公的制度では対応できない臨時的緊急的ニーズに対応する社会貢献の取り組みです。生活困窮者に対して、その住居、衣食、その他日常の生活必需品もしくはこれに要する金銭を同行にて支援すると共に生活に関する相談に応じ、課題の解決に努めます。管理者の指揮のもと、サポーターと呼ばれる実働者が業務の実務を担います。

本年度は、生活福祉資金の対象者から相談があり実際の利用へとつながったケースと、役場福祉課経由で相談されたケースがあり、職員がサポーターとして実働しました。

延利用者数：２件 121,653 円（昨年度：０件 ０円）

事業として初めて拋出金を活用した支援を展開した。

緊急用食糧等給付事業や墓地清掃管理事業等、本会の他事業を組み合わせることや、行政、困りごと相談室、こども食堂等を巻き込んだ支援が行えた。一方で、拋出金をすべて活用した後も困窮から脱却する明確な糸口を提示できなかった。支援者側のスキルや経験不足が要因にあると考える。

#### （４）緊急用食糧等給付事業

新型コロナウイルス感染症の影響で、生活が困窮した世帯に対して一時的支援を行うために、急遽始めた事業です。

生理用品配布事業から始め、その後生活福祉資金の受付や自立相談支援事務所（困りごと相談室）との関わりの中で、金銭に余裕がなく食べるものがないという声を聞くことがあり、緊急的支援として食料品の配布を始めました。

福祉課生活保護担当や困りごと相談室、生活福祉資金申請者等、生活困窮者対策の事業や機関との関わりの中で、必要性がある場合に限って、食料品を３日分程度配布しています。

フードドライブ事業でいただいた生理用品や食料品を活用するとともに、歳末たすけあい募金を活用して事業を実施しました。

【生理用品】 延配布数：11 件（昨年度：10 件）

【食 料 品】 延配布数：18 件（昨年度：14 件）

この事業は、一時的支援のため申請等は不要で行っている。

困りごと相談室やケースワーカーからの相談依頼が増えていることから、事業の認知度が高くなっていると思われる。

#### （５）フードドライブへの協力

社協だよりや本会ホームページに食品募集記事を掲載した他、ふれあいの里館内や遠賀町役場庁舎内に回収箱を設置して募集に努めています。またふれあい福祉フェアにもブース出展し、事業の周知に努めました。

また、町内の篤志者から寄付いただいた食料品やライフレスキュー事業を通してセブンイレブンより寄贈があった食料品、調味料等を「NPO 法人つどい えがお食堂」や「ちくようごはん」といった町内のこども食堂等へ無償提供するとともに、生活困窮世帯への支援物資として活用しました。

食料を長期的にストックできる環境ではないので、寄贈品は、できるだけ早く食堂等に配送するようにしている。

寄贈元	種類	配布先
一般住民	米・缶詰・レトルト食品 乾燥麺・野菜・菓子等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ えがお食堂</li> <li>・ ちくようごはん</li> <li>・ 福祉高齢者支援係生活保護担当者やケースワーカーからの紹介による生活困窮者等</li> </ul>
セブンイレブン	飲食物 35 箱 雑貨 16 箱	
全国労働者共済生活協同組合連合会 (こくみん共済 coop 福岡推進本部)	米 5 kg 3 袋	

## VIII. 相談支援・権利擁護事業の拡充

### (1) 心配ごと相談事業

弁護士や心配ごと相談員から、日常生活での困りごとや悩みへの解決に向けた助言とアドバイスを受けられる機会となっています。

利用件数が減少していますが、8月の台風による中止を考慮すると、例年並みの実績となっています。

延相談件数：57件（昨年度：64件）

月	件数	月	件数	月	件数
4	6	8	中止	12	7
5	4	9	6	1	2
6	8	10	5	2	7
7	5	11	4	3	3

最も多い相談は、近隣トラブル等による法律相談で、次いで相続等の財産トラブルとなっている。この傾向は3年連続で見られ、一定したニーズに対応するため、今後も事業を継続する。

### (2) 日常生活自立支援事業 【県社協受託事業】

福岡県社会福祉協議会より委託を受け、認知症や障がい等で、自分一人での契約に不安がある方やお金の管理に困っている方を対象に、福祉サービスの利用支援や日常的な金銭管理等を行う事業です。

専門員及び生活支援員を職員が行っており、他事業と兼務で対応しています。

本年度は、相談はあるものの利用には至らず、さらに施設への転居による解約2名、成年後見制度への移行による解約1名となり、利用者数が減っています。

そこで、介護支援専門員による事例検討会や地域包括支援センターが開催する「成年後見制度研修会」で、パンフレット配布と事業の説明等を行い、本事業の周知に努めました。

また、認知症等の進行により成年後見制度に移行するケースに備え、地域包括支援センターとの情報共有を行いました。

相談は数件あるものの、課題が複合的に絡む事例もあり、実際の利用に至っていない。

周知は継続する必要がある。

延利用者数：64名（昨年度：99名）

月	高齢者	障がい者	月	高齢者	障がい者
4	4	3	10	3	2
5	4	3	11	3	2
6	4	3	12	2	2
7	4	3	1	2	2
8	3	2	2	2	2
9	3	2	3	2	2

## IX. その他の事業

### (1) 介護ベッド・車椅子の貸出

介護ベッドや車椅子が必要な世帯に貸出を行いました。

昨年度に続き、新型コロナウイルスワクチン接種会場に車椅子を貸し出す等、柔軟な対応を行いました。選挙や身体障がい者福祉協議会の行事でも貸し出しており、利用を求める声は広がっています。

延利用者数：27名（昨年度：57名）

介護ベッド：1名（昨年度：4名）

車椅子：26名（昨年度：53名）

### (2) レクリエーション機材の貸出

地区ネットワークや福祉施設等から申出があり、イベントで使用する輪投げ、ラダーゲッター、ペタンク等の貸出を行いました。

延貸出件数：16件（昨年度：29件）

### (3) チャイルドシートの貸出

子育て支援を目的に、盆や年末年始の里帰り等での使用を想定したチャイルドシートの短期貸出を、本年度からはじめました。

延利用者数：2名

### (4) 臨地実習生の受入れ

福岡・医健スポーツ専門学校の看護学生の実習や麻生医療福祉専門学校福岡校の学生インターンシップを受け入れました。

新型コロナウイルス感染予防を行いながら、いきいきクラブや地域で行われるサロン活動での実習を行いました。

延受入日数：5日（昨年度：1日）

延受入人数：14名（昨年度：18名）

内 容	日程	人数
臨地看護実習	6月29日	4
	7月4日	4
	7月21日	4
	9月22日	4
インターンシップ	1月9日	2

利用者数は減っているが、車椅子については、一定の利用がある。

一方、介護ベッド利用者も1名のみである。広報に注力が必要なほか、今後も利用が少なければ、他事業への切り替えも考える必要がある。

地域で行われているサロン活動での実習ができなかった日があった。

社協事業や地域福祉活動を知ってもらうことを意識し、今後も可能な限り、地域での活動に参加してもらえるよう日程調整を行う。

#### （４）ふれあい福祉フェアの開催

地域福祉への意識を啓発し、住民からの福祉活動への理解と協力を得ることにつながる機会となるよう、下記の内容を実施いたしました。

##### ①ステージイベント

福祉の啓発として、障がいを抱えながら演奏活動を行っている heave-ho+ に出演してもらい、演奏会を行いました。

開催日：11月19日（日）

参加者：100名

##### ②ボランティア連絡協議会所属団体による体験会及び販売会

7団体による体験会及び販売会が実施されました。各団体が自主運営され、本会は助成金支援を行っています。

団体名	内 容
身体障がい者福祉協議会	障がい者スポーツ体験会
傾聴ボランティアひなたぼっこ	ミニおしゃべり会
手話の会 手話ほのぼの会水曜日・土曜日	手話体験会、福祉販売会
手をつなぐ親の会	福祉販売会
食生活改善推進会	蒸しパン無料配布

##### ③ボランティア連絡協議会所属団体による活動紹介

活動紹介のパネルを展示しました。各団体の会員も見学され、他団体の会員同士で交流も生まれました。

##### ④フードドライブ事業のPR

当日の食料の寄付は0件でしたが、フードドライブ事業についての質問を受ける等周知の機会となりました。

##### ⑤福祉機材の展示

貸出事業を行っている介護用ベッドと車椅子を展示しました。介護用ベッド、車椅子ともに介護保険で福祉用具貸与の対象となる資材ですが、急な怪我など一時的な使用に対応する本事業の概要を周知することができました。

##### ⑥社会福祉法人連絡会による総合相談

遠賀町内の社会福祉法人の連携で総合相談の受付を行いました。当日の相談はありませんでしたが、各法人の事業所紹介として作成したパネルを見学されていました。

昨年度実施の反省点を活かして、ボランティア連絡協議会、社会福祉法人連絡会と協同することで、福祉の普及・啓発の場として、実施できた。

しかしながら、従前の福祉まつりの取り組み経験やイメージが払しょくすることが難しい状況下が続いている。

## (5) 中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会

中間・遠賀地区社会福祉協議会連絡協議会として、広域エリアでの連携や地域福祉の推進へ寄与できるよう、会議や研修会を実施しました。

## ①会長・事務局長会議

実施日	内 容	人数
8 月 30 日	令和4年度事業報告・決算(監査報告)について 令和5年度役員について 令和5年度事業計画・予算について	10
11 月 16 日	今年度事業の進捗状況について(報告) 情報交換	11

## ②係長会議

実施日	内 容	人数
8 月 24 日	令和4年度事業報告・決算(素案)について 令和5年度役員について 令和5年度事業計画・予算(素案)について	6

## ③ボランティア会議(中間・遠賀地区社協ボランティア会議)

実施日	内 容	人数
8 月 29 日	中間・遠賀地区ボランティア研修会について (内容・講師及び開催日の選定等) 各市町ボランティア連絡協議会情報交換等	11
10 月 13 日	中間・遠賀地区ボランティア研修会について (講師の決定、当日の動き等) 各市町ボランティア連絡協議会情報交換等	10
1 月 12 日	中間・遠賀地区ボランティア研修会の反省会 ふくおかきずなフェスティバルについて 各市町ボランティア連絡協議会情報交換等	9

## ④地域福祉担当職員会議

実施日	内 容	人数
9月8日	本年度の取り組みについて 県社協、各市町社協活動の情報交換等	10
11月15日	社協役職員研修会について (内容、講師及び開催日の選定) 県社協、各市町社協活動の情報交換等	13
1月11日	社協役職員研修会について (日程の延期報告及び今後の活動について) 県社協、各市町社協活動の情報交換等	9
2月9日	社協役職員研修会について (開催日の決定と内容の再確認) 県社協、各市町社協活動の情報交換等	10
令和6年 5月14日	社協役職員研修会の反省会 県社協、各市町社協活動の情報交換等	10

## ⑤ボランティア研修会

開催日：令和5年11月25日（土）

参加者数：128名

場 所：遠賀町中央公民館 大ホール

講 師：（活動紹介）手話ダンス YOU&I 遠賀教室

（講 演）社会福祉法人福岡県社会福祉協議会地域福祉部  
災害福祉支援センター 主査 藤本 博昭 氏

演 題：「災害とボランティア活動

～災害時にボランティアとして何ができるか～」

## ⑥役職員研修会

開催日：令和6年4月12日（金）

参加者数：73名

場 所：遠賀町中央公民館 大ホール

講 師：NPO 法人にいがた災害ボランティアネットワーク  
理事長 李 仁鉄 氏

内 容：講義「能登半島地震における活動の現状と災害ボランティアセンターの重要性について」

被災後の地域復興・再生において、共助の視点の必要性を理解し、取り組むことが必要であることを学習する機会として、各研修会実施した。参加者からは、自らができることで協力したいとの感想が多く寄せられた。

役職員研修会は令和6年2月に実施予定だったが、能登半島地震の影響で、講師の都合が付き、4月の実施となっている。

## （６）遠賀町新型コロナウイルス感染症

### 自宅療養者等生活支援サービス【町受託事業】

令和４年度途中から受託した事業です。５月に「５類」へ移行するまで実施予定でしたが、実際の利用はありませんでした。

## （７）新型コロナワクチン接種インターネット予約補助

本会職員が、高齢者等のインターネットによるワクチン接種予約が困難な方に代わって、予約手続きを支援しました。

延利用者数：215 名 （昨年 265 名）

月	件数	月	件数
５	102	９	82
６	10	10	15
７	0	11	6
８	0	12	0

利用者からは、大変好評をいただいた。

情報機器の操作が難しいという高齢者等が抱える制度のはざまの問題に柔軟に取り組むことができたと考える。



## 社会福祉法人福岡県共同募金会遠賀町支会の取組み

### 福岡県共同募金会遠賀町支会理事会

開催回	開催日	協議内容
第1回	5月30日	議案第1号「理事の選任について」 議案第2号「副支会長の選任について」 議案第3号「令和4年度福岡県共同募金会遠賀町支会事業報告及び共同募金寄付金・本部（事務費）サービス区分決算書について（監査報告）」
第2回	6月22日	議案第1号「理事及び監事の選任について」 議案第2号「支会長及び副支会長の選任について」
第3回	9月21日	議案第1号「監事の選任について」 議案第2号「令和5年度共同募金運動の実施計画について」
第4回	10月20日	議案第1号「理事の選任について」 議案第2号「支会長の選任について」
第5回	12月15日	議案第1号「令和5年度歳末たすけあい募金の配分計画について」
第6回	3月8日	議案第1号「令和6年度 福岡県共同募金会遠賀町支会 事業計画及び共同募金寄付金・本部サービス区分会計予算書について」

## (1) 赤い羽根共同募金運動 10月1日～3月31日(法定運動期間)

## 【赤い羽根共同募金】

実施日	活動名	内容	奉仕者数
10月3日	街頭募金運動	啓発活動として、社協職員とボランティア団体等により、「ゆめタウン遠賀店」にて街頭募金を実施	17名 (内職員3名)
10月1日 ～ 12月7日	戸別募金	区長会にて、各区での戸別募金運動について協力を要請	
9月25日	社協だより掲載	令和5年度共同募金実施計画掲載と共同募金チラシの折り込みにより掲載	全戸配布
10月10日 ～ 11月28日	法人募金運動	社協役職員により、町内の法人、事業所を訪問し、募金への協力依頼を実施	23名 (内職員6名)
10月1日 ～ 12月31日	寄付つき商品	事業所等が提供する商品等を購入するごとに、売り上げの一部が共同募金会に寄付されるしくみ平成29年度からスタートした。	2社

昨年度まで振込依頼を行い、対面での接触をなるべく避けるように努めていた法人募金は、コロナ禍後初めて、役職員による事業所訪問を再開した。

結果的には前年度比で募金額は減少してしまったが、単に募金額の維持、向上を目指すだけではなく、町内事業所との安定的な関係性の構築を意識し、行動できた点は良かったと考える。

共同募金実績 合計：3,341,480 円（昨年度：3,335,006 円）

活動名	内容	実績額
戸別募金	区長を通じて各戸別に協力を依頼	1,835,400
法人募金	法人・事業所を訪問し、募金を依頼	1,069,500
イベント募金	福祉まつり開催時に街頭募金を実施	0
職域募金	各職域にバッジ・図書カード等を販売	317,150
街頭募金	ゆめタウンでの啓発募金活動他	52,063
募金箱	遠賀町役場やふれあいの里等に設置	19,315
その他の募金	赤い羽根自動販売機	23,390
	寄付つき商品	3,220
	任意団体からの寄付 (岡垣第一幼稚園)	21,440
	預金利息	2

## (2) 歳末たすけあい募金運動 12月1日～12月31日

歳末たすけあい募金実績 合計：474,130 円（昨年度：463,220 円）

実施日	活動名	内 容	奉仕者数	募金額
10月1日 ～ 12月7日	戸別募金	区長会にて、各区での募金運動について協力を要請		458,400
12月1日	街頭募金	ゆめタウン玄関前で社協職員が実施	9名	11,979
12月1日 ～ 12月7日	募金箱	ふれあいの里に募金箱を設置		3,751

## 配分内容

配分内容	配分額（円）	備 考
歳末プレゼント贈呈事業	114,977	55 世帯
緊急用食料等給付事業	29,747	
チャイルドシート貸出事業	119,900	5 台購入
社協だよりの発行	209,506	

準要保護世帯への助成金事業から、ひとり親世帯へのプレゼント配布へ変更した。健康子ども課の協力ももらい、事業の周知を行うことができた。